

3. 目標達成への取組み状況

(1) 主要な取組み

製菓産業の CO2 排出削減対策としては以下のような取組みがある。

- ・空調設備の運転管理強化と高効率化
- ・省エネルギータイプの設備転換
- ・エネルギー転換等

(2) 温暖化対策と推定投資額、および効果

2005 年度の総投資費用は 24 億 9100 万円で、年間の維持経費は 9 億 5900 万円であった。対策による CO₂ の削減効果は、ハード、ソフト対応を含めて 64,349 トンであり、これは当年度の CO₂ 排出量の 2.8%削減にあたる。

4. 民生・運輸部門等への取組み

上記 3 の取組み分野のほか、オフィスでのエネルギー消費に伴う CO₂ 排出推定量は 19.3 万トン（単位床面積当たり 155.3kg/m²）、営業用等の車両の軽油、ガソリンから排出される CO₂ 排出推定量はそれぞれ 15.7 万トン、0.9 万トンで、合計 16.6 万トンであった。

低公害車は車両合計 39,905 台中、12,554 台で導入率は 31.5%である。

5. 今後の取組み

目標との乖離を減らすために引き続き努力する。そのために 2007 年度は次のことを実施する。

- (1) 技術情報の共有化
 - ① 省エネルギー・温暖化対策技術集の発行
 - ② 技術研修会の開催
 - ③ 調査報告書の発行
- (2) エネルギー転換による CO₂ 削減など温暖化対策の提言と推進
- (3) 2010 年度までの行動計画の策定

6. CO₂ 以外の温室効果ガス対策

2005 年度の HFC の実排出量は 110.1 トンであった。CO₂ に換算すると 22 万トンになる。

喘息及び慢性閉塞性肺疾患の治療に用いられる定量噴霧エアゾール剤 (MDI) や粉末吸入剤 (DPI) 等の定量吸入剤は、吸入療法普及に伴い、10 年に 2 倍の割合で処方数が増加している。定量吸入剤として永らく CFC 含有 MDI が使用されていたが、オゾン層保護の観点から CFC フリー代替剤への転換が行われた。1997 年に最初の HFC 含有 MDI が発売されて以来、2005 年末には出荷される定量吸入剤は全て CFC フリー代替剤となった。

1-2：建築物の省エネ性能の向上

(別表 1-2c②)、【国（環）】

1. 排出削減量の実績と見込み

- 現時点における 2010 年度の排出削減見通し

約 2,550 万 t-CO₂

<参考>

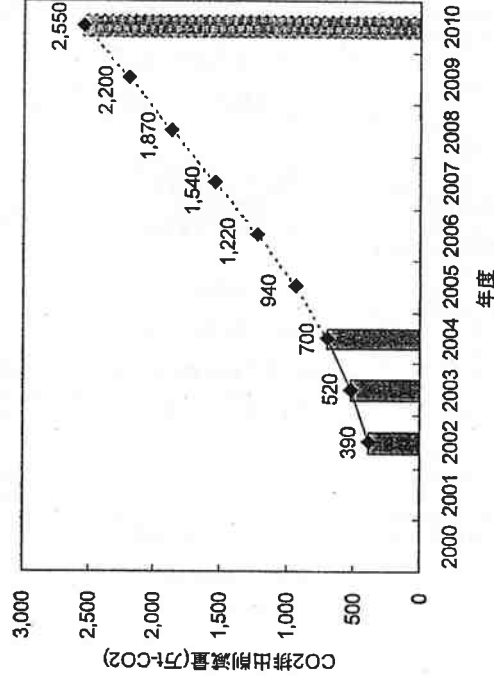
目標達成計画における 2010 年度の排出削減見込量

約 2,550 万 t-CO₂

(単位：万 t-CO₂)

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
CO ₂ 排出削減量	390	520	700	940	1,220	1,540	1,870	2,200	2,550	2,550	2,550
(最小値)											
(最大値)											

2004 年度まで実績に基づく推計。2005 年度以降は推計値（2010 年度の削減量は目標達成計画における目標設定値）。



算出方法

1. 建築物省エネ係数の算出
建築物省エネ係数 = (各省エネ基準を満たす建築物ストック構成比) × (各省エネ基準のエネルギー消費指数)

2. エネルギー消費削減量の算出
エネルギー消費削減量 = (自然体ケースにおける 2010 年の冷暖房・給湯・動力他エネルギー消費量) - (対策ケースにおける 2010 年の冷暖房・給湯・動力他エネルギー消費量)

